

台城跡

水島城とも呼ばれる台城は、菊池一族が隈府の城下町を守るために築いた十数か所の中世城郭のひとつだった。菊池氏の居城から西に 5 キロほど離れた台地の端に位置し、西に面していたため、菊池川のはるか下流を一望することができた。この戦略的な立地に加え、丘の真下には内田川が流れていたため、台城の侵攻は困難を極めた。

城の歴史の中で最も有名な戦いは、1375 年に菊池氏が武家主導の中央政権・足利幕府と戦ったときに起こった。ほんの数年前まで九州全土を支配していた菊池氏は、足利軍の将軍・今川了俊（1326-1420）の手によって次々と挫折し、先祖代々の土地に押し戻されていた。

菊池の抵抗に終止符を打つため、了俊は水島の戦いに数万の兵を引き連れたが、当時まだ 12 歳だった新任の当主、菊池武朝（1363-1407）の率いる約 2,000 人の軍勢に敗れた。武朝の勝利は了俊の菊池征伐を遅らせたが、6 年後のその目的はついに果たされた。